インフラメンテナンス国民会議九州フォーラム　令和２年度の活動報告

日野伸一[1]、池田喜輝[2]
九州大学名誉教授[1]、株式会社福山コンサルタント[2]

概要：　現在、我が国のインフラは急速な老朽化が進み、維持管理費の増大、将来的な担い手不足等様々な問題が生じている。そこで、九州地方のインフラメンテナンスにおいて、民間企業の多様な技術に対し、地方自治体のニーズとのマッチングを行い、課題解決策を見出すことが本フォーラムの目的である。本年度は新型コロナウイルスの影響により活動の制約がある中、ピッチイベントの開催、実務経験豊富なベテラン技術者によるよろず相談「テックシニアーズ」の開設を行い、インフラメンテナンスに関する知名度・理解の向上を図った。

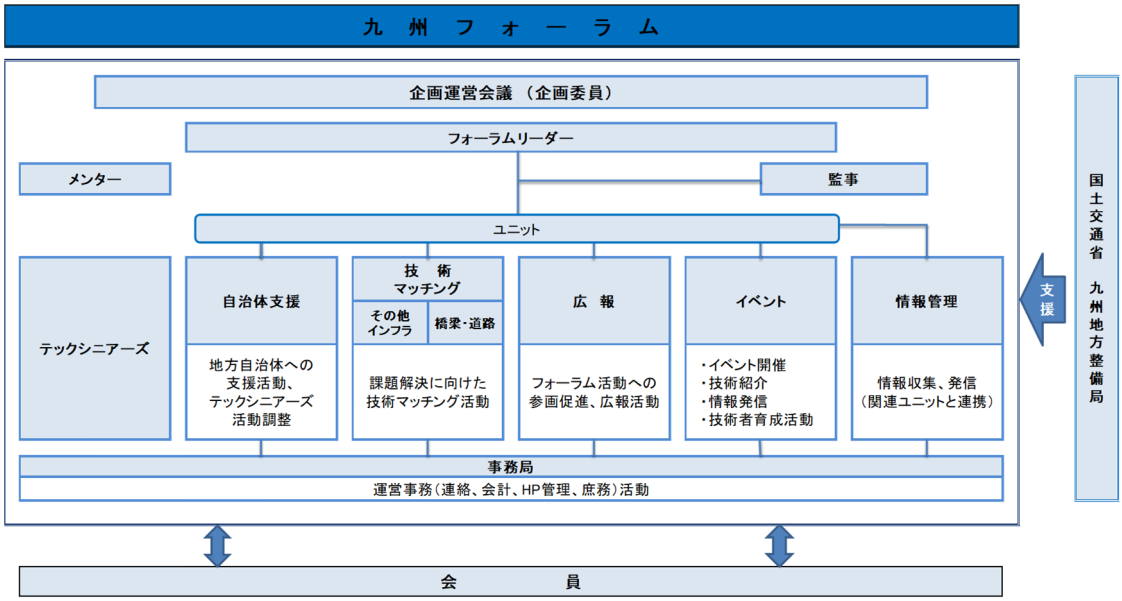
１. はじめに

高度経済成長期に集中的に整備された我が国のインフラは、老朽化が今後急速的に進むことが懸念されており、人口減少や財政的制約がますます厳しくなる中で、いかにインフラの維持管理・更新に取り組んでいくかが喫緊の課題となっている。特に、若い世代の人口流出に悩む地方自治体においては、インフラの維持管理を支える建設産業や若い担い手の確保等、社会的な問題として取組む必要性が求められている。

このような背景から、インフラメンテナンスに産官学民が一体となって取り組む体制をつくり課題解決やイノベーション推進を図るプラットフォームとして、平成 28 年 11 月にインフラメンテナンス国民会議が設立された。具体的な取組み目標として、①革新的技術の発掘と社会実装、②企業等の連携の促進、③地方自治体への支援、④インフラメンテナンスの理念の普及、⑤インフラメンテナンスへの市民参画の推進、の５項目が掲げられている。

それを受けて、インフラメンテナンス国民会議の公認フォーラムとして、「インフラメンテナンス国民会議　九州フォーラム」（以下、九州フォーラムと称する）を平成 30 年 1 月 17 日に設立し、現在に至る。

本稿では、九州フォーラムの令和 2 年度における活動状況を報告する。



図－1　令和２年度　九州フォーラム組織図

２.九州フォーラムの組織体制

九州フォーラムでは、産官学民の連携を軸にして、九州におけるインフラメンテナンスに関する自治体支援や技術開発の推進に向けた情報交換、ベストプラクティスの水平展開、取り組みのマッチングによる課題解決策の構築などについて、活動を展開している。

九州フォーラムの会員は、インフラメンテナンス国民会議に会員登録された九州在住の企業会員、行政会員および個人会員から構成される。九州フォーラムの運営組織構成を**図－1** に示す。運営体制の構築にあたり、九州フォーラムの活動に熱意とボランティア精神をもった会員を募り、リーダー及び事務局を含む企画運営会議が設置され、現在の企画運営会議のメンバーは、学識経験者のメンターも含め、40 名、23 機関で構成されている。九州フォーラムとしての活動を活発に推進するため、企画運営会議の中に、自治体支援、技術マッチング、広報、イベントおよび情報管理の各ユニットを設けて業務を分担する体制を構築するとともに、国土交通省九州地方整備局と緊密に連携しながら運営している。

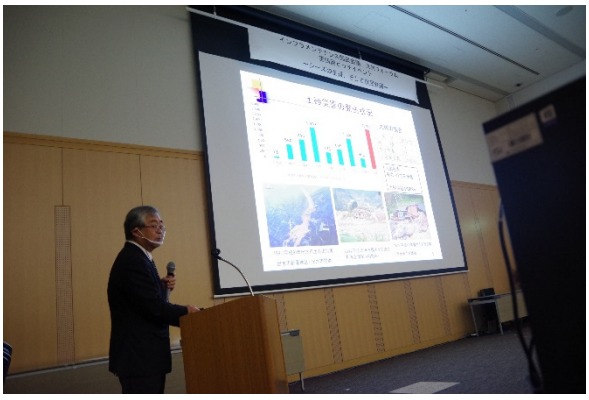
さらに、令和 2 年 4 月からは自治体支援の一助となることを目的にとして、現役を卒業した実務経験豊富な技術者達によるインフラメンテナンスに関するよろず相談窓口として、「テックシニアーズ」[1] を新たに設立した。

また、本フォーラムへの九州地方の自治体（全 240 自治体）の参画状況について、昨年度は約 5 割となる 128 自治体（平成 31 年 2 月 27 日）であったが、今年度も参画自治体が約 8 割となる 189 自治体（令和 3 年 4 月 30 日）[2] まで増加し、特に、一昨年度にピッチイベントを実施した大分県、令和 3 年度開催予定の長崎県については、ほぼ全ての自治体が参画しており、地方開催のピッチイベントによる効果が確認された。

表－1　自治体参画状況（R3. 4 時点）

	自治体数（県含む）	国民会議参画		備考
		自治体数	参画率	
福岡県	61	49	80. 3%	
佐賀県	21	13	61. 9%	
長崎県	22	21	95. 5%	
熊本県	46	41	89. 1%	
大分県	19	19	100. 0%	
宮崎県	27	16	59. 3%	
鹿児島県	44	30	68. 2%	
合計	240	189	78. 8%	
全国（参考）	1, 788	1, 043	58. 3%	

図－2　第 4 回ピッチイベント案内



写真－1　基調講演

３. 令和２年度の活動紹介

(1) 第４回ピッチイベントの開催

今年度の九州フォーラムにおけるメインの活動として、令和２年 10 月 21 日に福岡市で「第４回ピッチイベント～シーズの生長、そして市民参画～」を開催した。本イベントは、昨年と同様に「九州建設技術フォーラム 2020」と同時開催とした。第４回ピッチイベントの案内を**図－2**、実施状況を**写真－1～3** に示す。これまでのフォーラムでは、「自治体からのニーズ」と「民間からのシーズ」のマッチングよる課題解決に取り組んできたが、今回は、近年頻発する自然災害を踏まえた「防災対策」や「市民参画」による課題解決に向けた取り組みを紹介した。

まず第１部では、長崎大学名誉教授の高橋和雄氏に「防災とメンテナンスの関連性」と題して、基調講演（**写真－1**）をいただいた。その後、石橋の保存、活用していくための取り組みについて、(一社) ツタワルドボクの片山英資氏による進行のもと、学識者、管理者（自治体）、市民の全６名にてパネルディスカッションを行った。

続いて第２部では、「防災に関する最近の話題」と題して、九州大学大学院教授の矢野真一郎氏の進行のもと、九州地方整備局や民間企業３社における防災に関する話題提供を行った。その後、防災構造研究所の川神雅秀氏による「テックシニアーズ」の紹介、長崎大学名誉教授の高橋和雄氏による「ピッチイベント長崎」の案内を行った。

当日の参加者については、169 名であったが、国及び地方自治体の参加者はコロナ禍の影響もあり、２割程度であった。今回はコロナ禍の取り組みとして、web 配信を併用してパネルディスカッションを実施したが、今後も web 配信を積極的に活用し、自治体に参加していただけるよう取り組んでいく必要がある。

(2) テックシニアーズの設立

中小規模の地方自治体が取り組む公共インフラ老朽化対策は、実施にあたって、例えば、

写真－2　パネルディスカッション

写真－3　防災に関する話題提供

財源の確保、体制づくり（人材育成）、対策の基本計画・行動計画の策定、継続的なマネジメントの実施、その他（技術の育成、外部情報の収集）等、自治体単独では十分な対応が困難な場合が多い。

一方で、当フォーラムでは組織体制に「自治体支援ユニット」を設け、自治体が抱える様々な課題に対して、その解決に向けた支援を行うこととしているが、具体の支援活動が十分に実施できていないのが現状である。

そこで、これらの状況を踏まえ、現役を卒業した実務経験豊富な技術者達が集い、ボランティア活動の一環として地方自治体からの様々な相談に対して、中立的立場で技術アドバイスを行い、自治体支援の一助となることを目的に「テックシニアーズ」を設立し、令和２年４月１日より活動を開始している。技術アドバイザーの資格要件を**表－2**、支援の基本的な流れを**図－3** に示す。当グループでは、推進責任者と

して、防災構造工学研究所の川神雅秀代表、九州大学名誉教授の大塚久哲氏が担当している。

4. 今後の活動予定と課題

今後も、九州フォーラムの活動として、インフラメンテナンスに関わる地方自治体支援や、オープンイノベーションによるメンテナンス技術の発掘、マッチングによる課題解決などに積極的に取り組んでいく予定である。

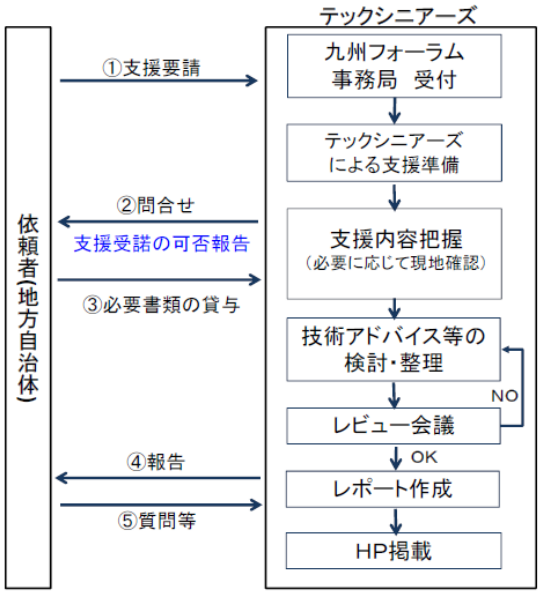
現在、インフラメンテナンス国民会議への地方自治体の参画状況は、全国では約 6 割に対して、九州では約 8 割と高い参画状況にある。今後も更なる会員拡大に向け勧誘活動を進めていく必要がある。そのため、一昨年開催の「ピッチイベントおおいた」のように、活動が特定の地域に偏ることなく、九州各県でのイベント実施および拠点形成に努め、各地域での草の根運動的な普及活動を図る必要がある。そのためにも、各県庁、国の道路・河川・港湾などの各事務所および地域の大学・高専の学識経験者らに参加協力を求めるとともに、既存の道路メンテナンス会議や地域のボランティア組織との連携を強化推進していく必要がある。加えて、継続的な活動展開のためには、安定的な財源確保が最大の課題でもある。

5. おわりに

少子高齢化時代を迎え、国および地方自治体の財政状態及び人材不足がますます厳しさを増す中、インフラマネジメントに対する国民一人一人の理解を得て、産官学民の連携によるインフラマネジメントに取り組むという国民会議の精神がきわめて適切かつ重要であるということは誰もが認めるところである。九州は、これまで歴史的にも産官学の連携による学協会活動や市民活動が活発に展開してきたという風土がある。是非とも、九州の産官学民の連携をより一層強化し、インフラマネジメントを通じて安全・安心で、豊かな未来を子孫に残せるよう、各位のご理解、ご協力を切望するものである。

表－2　技術アドバイザー資格要件

公的資格	実務年数	職歴	現在の立場
博士（工学） 技術士（総合技術監理部門） 技術士（建設部門）（水道部門） 鋼構造及びコンクリート/土質及び基礎/河川及び砂防/トンネル/港湾及び空港/トンネル/道路/海岸・海洋	20年以上の経験を有すること	橋梁等の土木構造物を対象にした、維持管理計画、点検診断、補修計画、補修設計、材料選定、補修・補強の施工等の職歴があること。	原則として、常勤で民間企業等に所属していないこと。
道路橋点検士 コンクリート診断士 コンクリート構造診断士 土木鋼構造診断士			
RCCM （上記、技術士に求める該当分野） 特別及び上級土木技術者 海洋・港湾構造物維持管理士			
特定道守及び道守コース 構造物の補修・補強技士 一級構造物診断士			



図－3　第 4 回ピッチイベント案内

最後に、インフラメンテナンス国民会議九州フォーラムの活動に参加、協力を戴いた、企画委員をはじめとする会員の方々、そして公益事業の一環として助成金をご提供戴いた、(一社)九州建設技術管理協会および(一社)九州地域づくり協会に対し、深甚ある謝意を表する次第である。

参考文献

1) 九州フォーラム HP より

https://www.imkyushu.jp/tec/index.html

2) インフラメンテナンス国民会議 HP より

https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/im/about/kaiin_list.html　(2021.4)